

# 法学部 准教授 時田 賢一

「脳波」というと、詳細はさておき、その言葉を聞いたことのない人はまずいないでしょう。しかし、世界で初めてヒトからの脳波の計測に成功した科学者の名を知る人は少ないのではないのでしょうか。本書はその科学者、ハンス・ベルガーについての伝記です。

現在に至るまで基礎と臨床の場で用いられている脳波を初めてヒトで計測した科学者ですから、さぞかし各方面から称賛され輝かしいサクセスストーリーに彩られた人生だったのだろうと想像されるかもしれませんが、しかし、科学の世界においてはしばしば革新的な発見は学界から無視されたり批判されたりします。ベルガーの脳波の研究も残念ながら例外ではありませんでした。

最初の論文発表から長い時間をかけ、一定の国際的評価を得たものの、現在から見ると必ずしも正当に評価されたとはいえないまま自殺という形でその生涯を閉じたベルガーですが、本書を読めば、彼も我々と変わらないような挫折や悩みを抱えながら時代を生きたひとりの人間であることが分かり、親しみも湧いてくるとともに彼の人生から学ぶべきものも見えてくるでしょう。論文からだけではわからない科学者の内面も、紹介されている日誌から伺い知ることができます。

本書では脳活動測定の歴史的経緯、技術的進歩および当時の神経生理学や精神医学の学問的潮流などの比較的専門的な説明もありますが、詳細な注が理解の助けになるでしょう。



『脳波の発見 ハンス・ベルガーの夢』  
宮内哲  
(2020,岩波書店)

## 【所蔵情報】

本館	資料ID	111089470
	請求記号	K/492/Mi86
靖国分館	資料ID	111182911
	請求記号	/492/Mi86/